



職場体験を終えて

安中市立第二中学校 教諭 牧野 理穂



相馬原駐屯地飛行場・集合写真



新町駐屯地にてコンパス授業



中学校に基本教練及び缶バッジ作り



相馬原駐屯地にて集合写真



相馬原駐屯地・戦闘偵察大隊見学



生徒たちから感謝の手紙

中学校二年生にとって大きなイベントの一つである職場体験。本校でも一学期から職場体験に向けた準備が始まった。「夏休み明けすぐに職場体験を行います。」学年集会で教員から職場体験の話がでると、生徒たちは目を輝かせ、「どの業種に希望を出そうかな?」と会話に花を咲かせた。生徒たちの様子から職場体験をとても心待ちにしている様子が伺えた。私自身も中学校二年生で経験した職場体験。貴重な体験を通じて、「子供と関わる仕事に就きたい」という夢を見つけてほしい、様々な思いを抱き、教員、生徒ともに職場体験に向けて本格的に動き出した。

様々な事業所の方にご協力いただき、実施することができた職場体験。今回は四名の生徒が自衛隊にて職場体験を行わせていただいた。活動が始まる直前、生徒たちは「自衛隊の方はどのような服装で来るのかな?」「今日はどのような体験ができるのかな?」と心を躍らせていた。緊張と不安の面持ちで自衛隊の方の到着を待つ生徒。そこへ迷彩服姿の自衛隊の方が現れた。生徒たちの口から「わあ、すごい。」という言葉が自然と溢れた。毎日通っている学校が、一瞬にして非日常空間へと変わっていった。

その日は午前中に自衛隊に関する講義、午後は自衛隊の所作や缶バッジ作り、VR体験をさせていただいた。午前中の講義で一番印象に残ったことは東日本大震災の話である。「建物に船が刺さっている光景に驚いた。初めて壊滅という言葉を使った。」この言葉を聞いた時、改めて災害の恐ろしさを感じたとともに、過酷な現場で戦う自衛隊の皆さんに頭が下がる思いでいっぱいになった。また、自衛隊には様々な職種があることも驚いた。

音楽に携わる人、医療に携わる人、警備犬の育成に携わる人など、職種の数と種類の豊富さに驚いた。「将来の夢がまだ決まっていないのであれば一度、自衛隊に来てみてください。世の中にある様々な職種を自衛隊で体験し、次のステップに活かすこともできますよ。」この言葉を聞いて、自衛隊は自らの興味・関心を広げ、可能性を伸ばすことができる場でもあるのだと感じた。私にとっても生徒にとっても、新たな視点から自衛隊を見る良い機会となった。午後に行った自衛隊所作に関する実習では、基本姿勢や敬礼、行進の仕方などを教えていただいた。自衛隊の方に丁寧に指導いただき、ピシッと背筋を伸ばして立つ生徒。その姿は、とても凛々しく、普段の学校生活とは少し異なる姿に新鮮さを感じた。

三日間の職場体験学習があっという間に終わり、再び始まった日常生活。どの生徒も明るい表情をしており、三日間の体験が充実したものであったと感じたとれた。「中学生生活で一番の思い出になりました。」と語っている生徒もいた。自衛隊で体験させていただいた生徒たちも、嬉しそうに体験内容を話してくれた。「自分で作った缶バッジ、大切にします。」「戦車やバイクに乗せていただけて、とてもわくわくしました。」「隊員食堂で食べた肉丼がおいしくて、完食しました。」目を輝かせて語る生徒たちの姿は、本当に素敵だった。

職場体験の三日間は生徒たちに豊富な学びと経験を与えてくれたかけがえのない時間となった。今回の職場体験学習を行うにあたり、ご協力いただいた相馬原駐屯地及び新町駐屯地の皆さん、群馬地方協力本部高崎地域事務所の広報官の方には感謝の気持ちでいっぱいだった。この経験を経て、また一つ大きく成長した生徒たち。彼らがこれから先、自らの目標や夢を見つけ、そして、自らの未来を切り開いていけるよう、ひとりの大人として支援し続けていきたいと改めて感じた。